

# 平成 22 年度 教育課程編成にあたって

## 小 特活

### 1 平成 22 年度に求められる取組

#### (1) 年間指導計画の作成

学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮した全体計画、各活動・学校行事の年間指導計画を作成する。学級活動については、学級ごとの指導計画も作成する。

#### (2) 配慮すべきこと

- ① 学級活動、児童会活動、クラブ活動の指導に当たっては、話し合い活動やきまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫する。
- ② 学校行事では、総合的な学習の時間との関連を図りながら、異年齢集団による交流、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動を充実させる。

### 2 教育課程編成上、参考となる取組例

#### (1) 学級活動 各学年の年間指導計画(例)

月	段階	(1) 予想される議題、活動 (2) 題材	(1)			(2)	指導上の留意点、ねらい	各教科等、特 各内容との関
			話し合い活動	係活動	委員会活動			
4月	仲間意識を高める	ア 最上級生になって				○	最上級生としての自覚を明確にし、学校のリーダーとしてのめあてを立てる。	作文「6年生になって」
		ウ 学級目標を決めよう	○				学校の目指す児童像や学年目標を具現化するための学級目標を、学級全員の願いを生かしながら決める。	
		イ 学級の当番や係を決めよう		○			学校生活が楽しくなるような内容を工夫して、当番や係活動の計画を立てる。 なかに、活動や学校生活の中で、最上級	

- ① 発達段階を記入することで段階を意識した指導ができる。
- ② 1年間ですべての内容（共通事項(1),(2)の10項目）を取り扱う。

#### (2) 言語活動の充実(例) 「話し合いの仕方」9年間の指導系統表(小中連携)

《司会者》

○：取扱学年 ◎：定着学年

司会者、参加者、提案者などの発達段階に応じた9年間の指導の目安を作成し、小中が連携して共通の目指す子供像をもって指導に当たると効果的である。

内容	小学校						中学校		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
	意見交換・討議								
1 発言に対して不明な点を聞き返したり、整理して参加者に返したりする。「もう一度お願いします。」「○○さんは～と言っていますが、どうですか。」	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 同じ考えや似ている考え、違う考えなどの発言を促す。	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 発言が一つに偏ったとき、別の考えを促す。「～の考えが多いようですが、～についても意見を出してください。」			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4 話し合いの内容を焦点化する。「～についてもっと意見を出してください。」「～について詳しく話し合います。」			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

### 3 教育課程編成上のQ&A

- Q1 学級活動の指導計画を作成する際、「議題名」と「題材名」をどのように使い分ければいいのか。
- A1 小学校においては、共通事項「(1)学級や学校の生活づくり」では「議題名」、共通事項「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」では「題材名」と記述する。年間指導計画を作成する場合は、「議題名」を「予想される議題名」と表記する場合もある。
- Q2 情報モラルや消費者教育など、共通事項(2)ア～キの内容に当てはめるのが難しい内容が増えてきているが、その場合の取扱いについて教えてほしい。
- A2 高学年ともなると、(2)ア～キの内容は年間1時間程度しか確保ができないこともあるが、情報モラル等の内容は喫緊の課題なので、児童にその大切さを実感させるためにも、学校行事や総合的な学習の時間との関連を図りながら取り上げてほしい。